



# 侵襲型と非侵襲BMI

#### 侵襲型

- 高時間空間分解能
- ニューロン活動
- 高性能

## 非侵襲型

- 低SN
- 脳波、近赤外光計測、脳磁
- 図、fMRI ・ 低い性能
- ・ 過度なユーザ訓練
- ATRの新しい視点
- 多点観測、機械学習
- 高性能
- 自然な脳活動
- ユーザ訓練なし

# BMI成功の3要素

#### 1. 神経科学の知識

- 運動野
- ニューロン発火頻度
- ポピュレーション符号化
- 2. 機械学習(脳情報解読)
  - 脳活動から情報(運動、画像等)へのマップ
  - ニューラルネット、SVM, SLR, SR等
- 3. ユーザ訓練(シナプス可塑性)

## 超多次元の特徴量ベクトルから スパースBayes推定で次元を絞り込む

- 機械学習(脳情報解読)の難しさは、訓練データ量が少ないにもかかわらず、脳活動から得られる特徴ベクトルの次元は巨大であること
- 汎化の難しい問題では、オーバーフィッティング
- 伝統的な赤池の情報量などの手法は、非階層、非 線形モデルで、組み合わせ爆発が起きる脳情報 解読では使えない
- 2001年頃から、様々な手法を開発
- 自動的特徴量絞り込みと計算神経科学の組み合わせ

例:2000点の脳内格子点電流を、1ミリ秒ごとに推定し、各時点で100個の周波数 毎のパワーを計算して、1秒間の情報解読に使うとすると特徴ベクトルの次元は2億

# 最尤推定(20次関数モデル)

過学習:学習に用いたデータに強く依存した推定 未知のデータに対する汎化性能が悪い



### 不良設定問題

### 少ないデータを使って非常に多くのパラメタを推定

#### • 最尤推定 (最小二乗推定)

データにもっとも当てはまりの良いパラメタを見つける
過学習:少ないデータを使って多くのパラメタを推定する場合
学習に用いたデータに強く依存した推定結果が得られ汎化性が悪い

スパース推定:有効な特徴量の抽出
少ないデータから得られたモデルパラメタを用いて
未知のデータに対する予測汎化性を高めるためには、
真に有効なパラメタのみを抽出し、
信頼度の低いパラメタは削除することが望ましい











